

最小限の努力で最大限の効果を得るためのひと工夫 1

= 授業は最初の10分で、だれでもできるコミュニケーションへの基盤作り =

その1：力がつくウォームアップ活動

伊達市立伊達中学校 大塚謙二

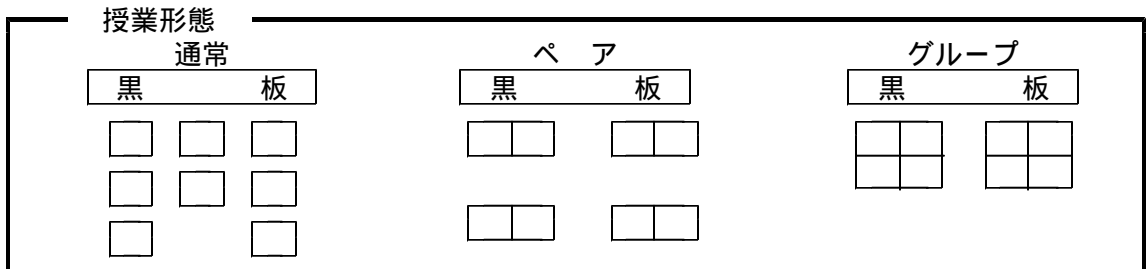
コミュニケーションな授業をするには発話しやすい雰囲気作りが必要不可欠である。授業の出だしの活動はその授業全体の雰囲気に大きな影響を与えてしまうので、英語の授業に向かわせる心構えを作り出すために力のつく効果的なウォームアップ活動を行う。ゲームも良いが、楽しいだけで力がつかない活動で本当に良いのだろうか？ 1日10分×105回の授業 = 17.5時間でコミュニケーションへの積極的態度を育てる。

指導のポイント： 最初は教師の発話を聞かせ、慣れてきた頃に生徒に発話させる

改善のポイント： ある活動がうまくいかないときの反省事項

その活動の形態は適切？ 指名方法は適切？ タスクの難しさは適切？

生徒と教師のかかわり方、活動方法は適切？ T ALL T S S S S



：あいさつ、力のつく発声練習：英語の授業に向かう心構えをつくる

挨拶 + shortspeech + それに関するQ&A

座席： 通常の座席

・あいさつ：

授業最初のあいさつが小さいとその授業全体の声が小さくなってしまふ

そのためにできないと、やり直しをさせる(声が小さいとイエローカード)

・shortspeech：

まとまった英文を聞く態度を育てる。大意を把握させることを目的。日常の出来事や生徒の知っているニュースについて英語で話す。

・Q&A：

その話に関する Q&A をする。

スケッチブックの不規則動詞の変化表練習

・古くから行われているこの活動は、不規則動詞を覚えるためだけのものではなく、過去形を学習する前の1年生の後半から行うと付随するメリットが多い。

- 1 , リズミカルで、適度なスピードがあるので生徒たちが自然と集中し声が出てくる
- 2 , 覚えた量がわかるので自信につながる
- 3 , 日常的に使用する頻度の高い語彙を覚えることができる。
- 4 , 動詞の過去形、現在完了形、受動態を学習するときに過去形や過去分詞を理解する上で役立つ。

人は同じことを繰り返していると飽きてしまう。しかし、力がつく活動は続けさせたいものだ。そんな時にペア、グループを利用したり、同じ活動の方向性を少し変えるだけで新たな気持ちで取り組むことができる。また、達成できる目標も変わってくるのである。

： Word Quiz : 聞く力を育てる

- ・ある特定の単語を当てさせるために多くの特徴となるヒントになる事柄を英文で与える。ヒントを聞くリスニングの力を育てる。英語で答えさせるが、わからない単語は日本語で答えてもよいことにする。こうすると問題の幅が広がる。
- ・同じ活動もずっと行っていると飽きてしまうが、座席の変更や、実施の工夫で意欲を喚起することができる。

通常の座席のWord Quiz (Teacher Students) 聞く力

タテヨコWord Quiz (Teacher Students) 聞く力 ゲーム性が出てくる

グループWord Quiz (Teacher Students) 聞く力 団結力が出て、集中する

ペアWord Quiz (すぐ) (Student Student) 話す力 [流暢さを高める] 聞く力

thinking time 30秒有り (Student Student) 話す力 [正確さを高める] 聞く力

生徒同士のペア・グループで行う。学年に応じて単語の羅列から徐々に句、文章へと発展させていく。発話をさせる基礎を作る。30秒の thinkingtime 有りと無しで活動すると効果が違う。

Students' Word Quiz (Students Teacher) 話す力 皆の前で話すことに慣れる

特に は新学習指導要領のコミュニケーションへの意欲を評価できる方法である。

： Easy Question : 会話する (聞いて話す) 力を育てる

(定型表現を丸ごと覚える)

- ・英検 3 級の面接試験前に行われるような簡単な Q&A や YES / NO Question、疑問詞疑問文を教師から生徒に対して行い、質問を理解すること、質問に答えることに慣れ、最終的に生徒達が疑問文を自由に使用できるようにすることを目的とする。

タテヨコ Easy Question (Teacher Students) 答える力 ゲーム性が出てくる

グループ Easy Question (Teacher Students) 答える力 団結力が出て、集中する

指名 Easy Question (Teacher one student) 答える力 全員に聞かせる 緊張感

Three Questions (Student Student) 質問する力 積極性を育てる

疑問文のワークシートから 3 問を暗記し教室内の 3 人の生徒や先生と会話して着席。

会話の出だしは Excuse me. や Hello,などを、終わりには thank you.を使用させる。

タテヨコ Students' question (Students Teacher) 質問する力 ゲーム性が出てくる

グループ Students' question (Students Teacher) 質問する力 団結力が出て、皆の前で話すことに慣れる

- ・生徒に質問させて疑問文を定着させる。ALT が来たときにこの活動を行うと効果的である。

： 文法、定型表現の定着活動 : 基礎力 (文法や定型表現) を育てる

基礎的な文法や表現を覚えて口に出させることが重要！ただ、なんとなく覚えていることは口に出しては言えない。ある程度、頭の中でまとまらないと定着しないし、言えない。だから、必ず初期の段階で言わせるのだ。

文法チェック(ワークシート使用)

- ・中学校で学習する全ての文法事項のリストを持たせて、一問一答形式で文法を定着させる。ひとり 2 分 30 秒 × 2

- 1 タテヨコ文法 question (Teacher Students)

- 2 グループ文法 question (Teacher Students)

発話を組み立てる時や自分の発話が正しいかどうかモニターするときにどうしても必要となる文法の明示的な知識を定着させる活動。忘れがちな過去に学習したことの復習にもなる。

Memorization Sentences (ワークシート使用)

- ・教科書の目標文やよく使われる定型表現のリストを使用し、一問一答方式で日本語を英

語に、または英 日にする活動。できた文章は「正」マークでチェックをつける。5回で完了。

英会話 interaction は疑問文とその答えだけではない。肯定文、否定文、命令文、など様々である。それらの必要不可欠な知識を定着させる。

英会話 interaction はリスニングとスピーキングを即座にしていく活動である。すなわち「えーと」と考えていてはすべては過ぎていってしまう。だから、即反応できる力をつけるためには、即反応させる練習が必要である。

： Conversation : 会話する (聞いて話す) 力を育てる

One minute conversation

- ・「昨日見たテレビについて」「昨日食べたもの」「今日これからの予定」「趣味について」などの課題を与えて1分間英会話をする。

Two minutes small debate

- ・ Which do you like better Mr.doughnut or Mac? のような課題を与え、自分の支持する側で討論させる。全員がどちらかになった場合はそのよい部分を出させる。理論的な会話ができるよう にする。

MEMO

最小限の努力で最大限の効果を得るためのひと工夫 2

= 気がつけば覚えてしまっている新出単語指導法 (フラッシュカード) =

= ワークシートで、英語嫌いの生徒でもできる本文理解 =

その2 : 効果的な大塚式単語練習法/ あっさりとしていない本文の扱い方

伊達市立伊達中学校 大塚謙二

新出単語の練習をフラッシュカードで行う場合、普通、単語の発音練習と意味の確認で終わってしまう。しかし、今回紹介する方法は授業中の5分程度で新出単語の発音・意味の定着を目指した効果的な活動である。

また、教科書本文の扱い方については文法訳読式のように一文一文行っていくと、停滞した活動になってしまい、時間がかかる割に生徒たちの集中力を削ぎ、comprehensionの力を高めない。かといってあっさり大意の把握だけでは不満と不安が残ってしまう。1枚の worksheet で、英語が得意な生徒から苦手な生徒までが自分の力に応じた取り組み方を選択することができるワークシートを使って効果的に本文の学習を進める。グループで取り組むので生徒同士教え合い知識の共有ができる。

：大塚式単語練習法：(フラッシュカードの効果的な活用法)

- ・単なる単語の発音練習ではなく、新出単語をその時間で定着させる効果的なフラッシュカードの使用法
- ・フラッシュカードはフラッシュさせるからフラッシュカードである。
 - (1)最初はゆっくり、発音できるようになったら教師は意味を生徒は英語を繰り返す！
 - (2)ひとつ進んだらひとつ戻る Whatdoesitmean? で意味や発音を確認し、生徒に言わせる。
 - (3)教師 生徒のリピートまでの時間の短縮が活性化のポイント！時間の余裕を与えずにとダレる
 - (4)定着したらワードフラッシュで食いつかせる！ 英語 英語発音 英語 意味 意味 英語
 - (5)フラッシュさせると、単語を一文字ずつ認識せずに、全体で認識できるようになる。反射的に意味がわかるように訓練しないと、リスニング、スピーキングで使える単語にならない。

：Work sheet で、あっさりとしていない本文の扱い

Work sheetで本文を学習する目的

生徒たちの集中力を高め、短時間で効果的に内容を把握する

生徒たちの英語の読みとりの力をつける

家庭学習の時に音読、内容把握のフィードバックに利用できる

和訳をつけるので、細かい部分のチェックができる

各自の実力に応じて課題選択をし、テキストを読みすすめる

- : 英語が得意な生徒 何も見ないで worksheet の問題をすすめる。
- : 普通の生徒 教科書に記入したアンダーラインの要点を参考にする
- : 英語が苦手な生徒 和訳も参考にしながら問題を解く
- : 手も足も出ない生徒 和訳を先に読んでからプリントと英語に触れながら学習する

- ・本文は、教材の種類によって、またはその授業を通してトレーニングしたい内容によって扱い方を選択する。
- ・授業が停滞する原因はワンパターンとひとつの活動が長時間になること、そして、教師だけがずっと一方的に話している活動である！
- ・本文の扱いは丁寧に扱うとつまらなくなりがち、あっさり扱うと不安になりがち！

Work sheetの作り方

- : 英語の本文（基本的に1文は1行が使いやすい）
- : 問題 内容を問う問題 内容をまとめる問題 和訳させる問題
- : 発音のフリガナ
- : 本文の全文の和訳（授業では山折りにして基本的に見ない）

注：フリガナは賛否両論あるが、カタカナ発音を定着させるのではなく、普通の授業で徹底した正しい発音練習をして、家庭学習で本文を読む練習の段階で読めなかった時の発音を思い出す時の手がかりにするためである。また勉強に手も足もでない生徒にとっては授業中も活用できる。

注：訳は英語学習においては短時間で実力を付けるための必要条件である。現在の英語教育が大まかに本文の内容把握をさせる力をつけさせることを目的としている以上、授業では大意を把握させ、家庭学習で熟読できるためのプリントとする。

Work sheet 作成の留意点

- ・学習プリントの質問形式は密接にその課の内容に関連している。教師がその課の授業を何に重点を置き、どのように進めるべきか、進めたいのか、を検討して作成する。
- ・教科書の題材を分類すると
 - 会話形式：ペアの発表活動向き
 - 日記手紙形式：Reading 向き（難易度が比較的低い）
 - 物語、論説文形式：読みとり活動中心向き（難易度が比較的高い）

Work sheetでの本文の扱い方各種パターン

授業パターンは教材の内容、自分の目的に応じて使い分けることが重要！

基本的に各パターンは新出単語を先に徹底的に練習してから本文を扱う。
徹底して訳の解説をする文章は目標文、難解な文の2, 3文に限定する。

PATTERN 1 ベーシックな方法

1. 本文の重要な表現（行`ィ私,前置詞,など）にアンダーラインをひいておき、全文の下に「注」として意味を記入した work sheet を用意。 注目すべき文章には を記す
2. work sheet を5分で行わせる[最初の3分は独力で/残り2分は相談可]
（短時間で英文を読ませることに慣れる：速読練習 + 入試対策）
3. 答え合わせをする（隣同士チェック、その後発表させたり、教師側で解説したり）

PATTERN 2 リスニングに重点を置いた方法（会話文に最適）

1. CDを一度全部聴かせて聞こえた単語を口々に発表させて本文の大意を把握させる
2. 同じ内容のCDを一文ずつ止めながら聞かせて、先ほどより多少詳しく意味を取る
3. worksheet をここで配布し5分で行わせる
4. 本文の重要な表現（行`ィ私,前置詞,など）などにアンダーラインをひかせて意味を教える。再度、不十分なところをもう1分間与えてプリントを完成させる。

PATTERN 3 短時間で大意を把握する力をつけさせる方法

1. 本文の内容をピクチャーカードを使って簡単な英語で説明する
2. worksheet を3分考えさせる
3. 本文の重要な表現（行`ィ私,前置詞,など）にアンダーラインをひいておき、全文の下に「注」として意味を記入した work sheet を用意。
4. 再度プリントを3分間まとめさせる

PATTERN 4 こまかく正確に内容をとらえさせる方法（物語文に最適）

注釈の語彙に関しては少なめの work sheet を作成

1. worksheet の問題は和訳を多くしたもの（4～5文）を5分で行わせる
和訳が終われば一文ずつ正解を確認させる
2. 教科書の重要な表現、行`ィ私、前置詞、重要な文章などにアンダーラインをひかせて意味を確認して書かせる
3. 特に大切な文章を2, 3ピックアップして和訳を解説して定着させてからその英文を日本語を使わずに、英語で理解できるようになることを目的にして5回音読、そして、何度も黙読させる。英語を読ませながらイメージ化を図り To understand in English を意識させる

PATTERN 5 音読に力を入れたい場合の特殊な例

1. ピクチャーカードを使って日本語で内容をほぼそのまま伝える（何度も繰り返す）

2. 内容について日本語で質問し確認しながら進める
3. あらかじめ重要表現に下線を引き意味も記入してある work sheet の問題を 5 分で行う
4. 答え合わせをする（隣同士チェック、その後発表させたり、教師側で解説したり）
5. ペアリーディング、発表をする

：一石二鳥の音読 = shadowing : 力をつく音読指導

・単語の発音は文章全体のながれでは変化してしまう。音読は個々の単語の発音だけでは不完全。shadowing はネイティブにしか出せない文章全体の抑揚、リズム、音と音とのつながりに慣れるための活動。repeat after me 形式で行う活動より 2 倍の量、質が高い効果的な活動である。

音読に入る前のペアの準備活動

・文の意味を理解していない音読練習は、音の練習。意味を理解しての音読練習は英語学習である。英語を英語で理解できるようにするための音読練習につなげていく活動。

Eye Shadowing

・まずは音に慣れて、目で追えるようにしよう。

Parallel Reading

・eye shadowing できても、声に出して読めない。徐々に音に慣れて目で追いながら発音して、音読できるようにする。

Shadowing

・完全に単語や文を自分のものにしてしまわなければ shadowing は難しいものである。読めるようになったらこの活動で表現力を高めよう。

Speed Reading

・最初は速いと感じた本文の CD も自分が速く読めるようになると、その速さは気にならなくなる。速さに慣れるための音読。

Group (Pair) Reading

・わからない単語や間違えて覚えてしまった化石化した発音を修正してくれるのは他の人しかいない。互いに教えあい、相互に読む力をつけていく。

実際の音読のながれ

Work sheetで理解した後の 10 回のシャドウイング（定着と音読の力を短時間で効率的に）

最初の 2 回くらいまでは CD の音声を目で追う [eye shadowing]

3 回目～5 回目までは CD と一緒に読む [parallel reading]

5 回目終了後、各自に読む練習を 1, 2 分与え読めない単語を確認させたり、読める生徒は短時間になるべく早く多く音読させる [speedreading]

6、7 回目はパラレルリーディングもしくはシャドウイングを各自のレベルに合わせて選んで活動させる

8 回目から 10 回目まではテキストから目を離させて音に集中させて、完全にシャドウイングをさせる